

令和6年第9回定例教育委員会

令和6年9月26日(木) 午後2時30分  
江別市教育庁舎 大会議室

出席者	教育長	黒川 淳 司	説明員	教育部長	佐藤 学
	委員	須田 壽美江		教育部次長	新山 千穂
	委員	麓 美 絵		学校教育支援室長	
	委員	新館 忠 義			堂前 敦
欠席者	委員	兼子 弘 詔		総務課長	山崎 浩 克
				総務課主幹	鎌田 和 仁
				学校教育課長	稲田 征 己
				学校教育課参事	五十川 範 明
				教育支援課長	水口 武
				給食センター長	三浦 洋
				生涯学習課長	田中 紀 克
				生涯学習課主幹	星野 真 行
				スポーツ課長	松井 正 誠
				情報図書館長	表 修 志
				郷土資料館長	堀井 一 美
				郷土資料館参事	兼平 志 美
			記録員	総務課総務係長	伊藤 麻 美
			傍聴者	なし	

1 報告事項

- (1) 令和6年第3回江別市議会定例会の一般質問について
- (2) 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について
- (3) 令和6年度小中学生国内交流研修事業について

2 その他

- 次回教育委員会予定案件について
- 令和6年第10回定例教育委員会の日程について



	<p>としており、設置予定のない特別教室では、普通教室で使用しているスポットクーラー等を引き続き、使用することとしている。</p> <p>教育委員会では、スポットクーラー等の必要数を学校ごとに精査することとしており、余剰がある場合には、ほかの公共施設等への設置など、市全体として無駄なく活用できるよう、市長部局と連携しながら対応していく、と答えています。</p> <p>3点目の「スポットクーラー等の夏季休業中の活用について」の質問への答弁では、学校に設置している冷房備品は夏季休業中においても、部活動や夏休み学習会などで使用することから、稼働していない期間は学校閉庁日など僅かな期間に限られるほか、大型備品である機器を頻繁に運搬、移動させることは故障等につながることから、夏季休業中に学校外に持ち出して使用することは難しいと考えている。</p> <p>今後、スポットクーラー等に余剰が生じた場合には、夏季休業に関わらず、ほかの公共施設への設置など、無駄なく活用できるよう、市長部局と連携して対応していく、と答えています。</p> <p>これに対し、佐々木議員から、1点目の「エアコン設置の進捗状況と今後の設置計画について」再質問があり、「普通教室へのエアコン設置完了後の特別教室への設置について」への答弁では、現在進めている整備計画では特別教室にエアコンを設置する予定はないが、スポットクーラー等を活用し、快適な学習環境の提供に努めていく、と答えています。</p> <p>さらに、2点目の「購入したスポットクーラー等の活用について」再質問があり、「災害対応用の備品として管理、活用することについて」への答弁では、学校と相談のうえ冷房備品の必要数を精査し、余剰がある場合には、市全体として無駄なく活用できるよう、市長部局と連携しながら対応していく、と答えています。</p> <p>次に、藤城議員から、「食農教育について」、1点質問がありました。</p> <p>「小・中学校における食農教育の在り方について」への答弁では、市では、平成23年に「江別市食育推進計画」を策定して以来、食育の推進を図ってきている。計画における教育分野の取組として、小中学校では、栄養教諭による食に関する指導、学校給食での地場産農畜産物の積極的な使用を進めてきたほか、田植え稲刈り体験や小麦追跡学習など、様々な形での農業体験学習が行われている。</p> <p>このような取組には、都市と農村が調和した当市の特色が表れているものと考えている。</p> <p>食農教育に関する先進的な取組については、農業に関する学習を総合的な学習の時間において、重点的に授業時数を確保し、取り組んでいるものと承知している。</p> <p>総合的な学習の時間の中で、どのような課題に取り組むべきかについては、各学校独自に決定していることから、直ちに、市内学校のカリキュラムを画一化して食農教育に取り組むことは、難しいと考えている。</p> <p>また、農村地区の学校を特認校に指定し、市内全域から児童を受け入れることについては、通学手段としての公共交通の確保など様々な課題があるものと考えている。</p> <p>児童生徒が当市の基幹産業である農業を、身近なものとして学習することは重要であることから、引き続き、学校における様々な食や農業体験に関する取組を進めていくなど、他の部局や関係機関と連携して、子どもたちが農業と触れ合う機会の充実に努めていく、と答えています。</p> <p>以上です。</p>
黒川教育長	<p>ただいま報告のありました、令和6年第3回江別市議会定例会の一般質問について、質問等がございましたらお受けします。</p>
須田委員	<p>須田委員お願いします。</p> <p>就学援助制度についてですが、生活保護を受けていると、この制度を受けることはできないということでもよろしいでしょうか。</p>
黒川教育長 稲田学校教育課長	<p>稲田学校教育課長お願いします。</p> <p>生活保護を受けている方は、この就学援助を受けることはできません。以上です。</p>
黒川教育長 須田委員	<p>須田委員お願いします。</p> <p>この就学援助制度というのは、どのように一般の方々に周知しているのでしょうか。</p>
黒川教育長 稲田学校教育課長	<p>稲田学校教育課長お願いします。</p> <p>一般的には、江別市の広報誌ですとか、教育委員会のホームページ等でご案内しており、新しく小学校に入る新1年生には、就学時健診等のタイミングでお知らせすることになり</p>

<p>黒川教育長 須田委員</p>	<p>ます。在校生には、各学校から、制度を周知する書類を各ご家庭に配布していただき、周知に努めております。</p> <p>また、最近では、市の公式ラインで、教育分野の情報を受け取ると設定している方には、周知しているところです。以上です。</p> <p>須田委員お願いします。</p> <p>今はすごい物価高ですし、どんどん物価が上がっても給料がそれほど上がっていないということで、大変な時代だと思います。それなのに、この制度の認定率が低下しているということなので、これでいいのかな、という感じを受けました。</p> <p>減少傾向ではなくて増加傾向になるのではないかと思っていたのですが、その辺はどうお考えでしょうか。</p>
<p>黒川教育長 稲田学校教育課長</p>	<p>稲田学校教育課長お願いします。</p> <p>今回の一般質問におきましても、そのような主旨のご質問もございました。</p> <p>我々といたしましては、これまで認定の基準額を変更せずに据え置いてきたという状況でございます。本来は生活保護の1.2倍という基準でやっていたのですが、生活保護の基準がどんどん下がっていく中でも、こちらの基準は据え置いてきたので、わりと緩和した状態を維持してきたというところでございます。</p> <p>実際には、申請者が減ってきているという状態が起きていて、これに関しては、世帯の収入が、例えば共働きになったことにより増えたりですとか、あるいは、ある程度収入が多い世帯が増えてきたりしているというところなのかと思います。</p> <p>一方、物価が高騰しているというのは、我々も日々実感しているところであります。少しこの基準を緩和すれば対象となる方が増えるのではないか、という意図のご質問を受けたところでありますけれども、それに関しては慎重に考えさせていただきたいと思っております。当然他市の状況を見るということもあります。物価高騰対策に関しては、この就学援助制度だけでやるべきものなのか、あるいは、他の物価高騰対策として市全体で取り組むべきものなのかということも勘案する中で、今後、例えば、物価上昇に合わせて物価スライドのような形でこちらの基準を変えていくこと等に関しては、慎重に検討していきたいと考えております。以上です。</p>
<p>黒川教育長</p>	<p>その他、質問等はございませんか。</p> <p>(質疑終了)</p> <p>それでは、本報告について終了してよろしいですか。</p> <p>(一同了承)</p> <p>次に、報告事項(2)令和6年度全国学力・学習状況調査の結果についての報告を求めます。</p>
<p>稲田学校教育課長</p>	<p>稲田学校教育課長お願いします。</p> <p>報告事項(2)令和6年度全国学力・学習状況調査の結果についてご説明いたします。</p> <p>令和6年度の全国学力・学習状況調査は、令和6年4月18日(木)に実施し、7月下旬に文部科学省より江別市教育委員会にその集計結果が送付され、この度、その結果を分析いたしましたので、ご報告いたします。</p> <p>それでは資料の1ページをご覧ください。</p> <p>I 調査の概要の1 調査の目的については、記載のとおりであります。</p> <p>2 調査の対象学年等につきましては、小学校6年生及び中学校3年生が対象であり、市内全校で実施しております。</p> <p>3 調査の内容ですが、(1)教科に関する調査では、小学校6年生が国語と算数、中学校3年生が国語と数学であり、(2)質問紙調査では、児童生徒に対する調査と学校に対する調査が行われました。</p> <p>4番、5番については記載のとおりであります。</p> <p>6 調査結果の解釈等に関する留意事項ですが、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえる必要があります。</p> <p>次に、II 結果の概要です。</p> <p>まず、1 教科に関する結果の概要ですが、江別市の小学校6年生の平均正答率は、国語は全道平均及び全国平均を上回り、算数は全道平均を上回り、全国平均と同程度となっております。</p>

中学校3年生の平均正答率は、国語・数学ともに、全道平均及び全国平均を上回っています。

続いて、2質問紙調査に関する結果の概要です。

1点目「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校は94.1%、中学校は100%で、全国平均を上回りました。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回り、江別市の小中学校は、大変落ち着いた状態にあると言えます。

2点目「自分にはよいところがあると思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回りました。これは、子どものよさを認めるよう声かけを行うなど、各学校で行われている自己肯定感を育む取組の成果が表れているものと考えております。

3点目「ICT機器を活用した授業を週3回以上行った」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、ICT機器を活用した授業が積極的に行われております。

4点目「前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行った」割合は、小学校、中学校ともに100%で、全国平均を大きく上回り、小中一貫教育の柱の一つである「系統的な指導」の充実に向けた取組が進められています。

資料2ページをご覧ください。Ⅲ各教科の結果については、2ページから5ページにかけて記載しております。

ここでは、教科ごとに、正答数の分布グラフ、江別市・北海道・全国の平均正答数と平均正答率及び学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率等を表にしています。

小学校国語の正答数分布グラフでは、棒グラフで表示した江別市の正答率は、右側、正答数が多くなって行くほど北海道及び全国の折れ線グラフを超えており、他の教科においても同様の傾向となっております。

また、各教科のページ下部には今後の指導の参考とするため、市教委指導主事によりく正答率の低い設問及び学習指導の改善点>を記載しております。

このように、学力に関しては全体的に良い結果となりましたが、これはあくまでも市の平均であり、中間層に届いていない、いわゆる伸びしろ層の子どもたちもおりますことから、教育委員会といたしましては、引き続き学習サポート教員の派遣等の人的支援を効果的に活用するなど、各学校において、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導・支援を行ってまいりたいと考えております。

次に、6ページをお開き願います。Ⅳ質問紙調査の結果についてですが、1「児童・生徒質問紙」は、児童生徒が生活習慣や学習習慣等について回答した結果であり、6ページから8ページにかけ、「生活習慣」など7項目について、特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組を四角で囲んだ部分に記載しております。

なお、表中の増減比につきましては、5ポイント以上プラスの場合は太字で、5ポイント以上マイナスの場合は網掛けで表示しております。

資料7ページをご覧ください。(3)自己肯定感に関するこちらの2つの質問ですが、こちらは市の総合計画等でも指標として設定するなど、市教委として重視している設問であります。

「自分にはよいところがあると思うか」の設問では、肯定的な回答をした割合が、小学校6年生が84.4%、中学校3年生が84.2%でありました。

昨年度に比べると小学生は減少しましたが、中学生は増加しています。

また、「将来の夢や目標を持っているか」の設問では、肯定的な回答をした割合が、小学校6年生83.8%、中学校3年生67.5%であり、いずれも昨年度より増加しています。

次に、資料9ページをお開き願います。こちらは2「学校質問紙」であり、9ページから10ページにかけ、学校の教育活動等について学校が回答した結果のうち、「学習規律」など7項目について特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組等を四角で囲んだ部分に記載しています。

なお、11ページから22ページは、児童・生徒質問紙と学校質問紙の項目について、抜粋したものをグラフにして掲載しており、全国平均よりもプラス5ポイント以上を太字、全国平均よりもマイナス5ポイント以下を網掛けとしておりますので、ご参照ください。

最後に、23ページをお開き願います。

	<p>江別市「学校改善支援プラン」でございます。</p> <p>まず、上段の、明らかになった課題の主なものとしたしましては、1点目の、全国学力・学習状況調査等の学力検査の結果からは、7行目以降に記載のとおり、どの教科にも共通して、「根拠を明確にして説明する」力が弱いということが分かりました。</p> <p>そのため、自分の考えを説明する場面や対話の場면을意識的に多く設定することが必要であると考えております。</p> <p>次に2点目の、児童生徒質問紙からは、自尊意識を問う設問において、小中学校とも全国平均を上回りましたが、今後も、教育活動全体を通じて、一人一人のよさや可能性を見だし、自己肯定感・自己有用感を高める教育を充実させる必要があるとしております。</p> <p>資料の下段、左側は課題解決に向けた学校の取組であり、右側が、学校に対する教育委員会の支援でございます。</p> <p>教育委員会の支援の中で主なものとしたしましては、小中一貫教育の推進に係る支援や、学習サポート事業などの人的・物的支援があります。</p> <p>資料の説明については以上であります。これら調査の分析結果と支援プランは、来月の校長会議において情報提供を行い、今後も市教委と学校が連携・協力し、学習状況等の改善を図っていきたくと考えております。</p> <p>また、調査結果につきましては、後日ホームページで公表する予定です。</p> <p>私からは、以上です。</p>
黒川教育長	<p>ただいま報告のありました、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、質問等がございましたらお受けします。</p>
須田委員	<p>須田委員お願いします。</p> <p>中学校の数学のグラフですけれども、中間層が少なく、すごくできている子が多くなっています。他のグラフはだいたい山になって下がっているという形ですが、こちらは中間層があまりできていないということなのかと思うのですが、どうお考えでしょうか。</p>
黒川教育長 稲田学校教育課長	<p>稲田学校教育課長お願いします。</p> <p>ただいまご指摘いただきましたとおり、中学校の数学では、山が2つあるような変わった形になっております。こちらに関しましては、いわゆる中間層の生徒の一部が右側の定着層の方に動いて、12問、13問のところ1つ山を作るような形になったと思っております。</p>
須田委員	<p>正答率等の結果を見ましても、全国平均と比べても大きく上回っているような状況でありますので、中間層の子たちが定着層に動いたことが、平均正答率を上げたというところにつながったものと考えております。以上です。</p> <p>もう1つ、小学校の算数ですけれども、数と計算、計算の分野は最低限できなくてはいけないところだと思っています。一番点数を取らなくてはいけないところかと思うのですが、その部分で全国平均よりも低いということで、基礎の部分をしっかりやってほしいと思ったのですが、どうでしょうか。</p>
黒川教育長 稲田学校教育課長	<p>稲田学校教育課長お願いします。</p> <p>確かに、数と計算の部分というのは、全体の基礎となる部分でありますので、非常に重要だと思っております。先ほどの、中学校の数学が非常に良かったというところで、全体ではないのですが、非常に点数の良かった学校に、こういった形で指導されたのかと聞いてみました。やはり、その学校の数学の中では、基礎基本の徹底を図ったと、それが好結果につながったとおっしゃっていましたので、こういった基礎基本の部分が全体の底上げをするには非常に重要だという認識は間違いはないと考えております。以上です。</p>
黒川教育長	<p>その他質問等はございませんか。</p>
麓委員	<p>麓委員お願いします。</p> <p>6ページの子どもたちへの質問のところ、スマートフォン等のゲーム、SNS、動画視聴をする時間が減っているというのが、少し意外でした。結果的には良いことなので、それで良いと思うのですけれども、世の中ではたくさん動画を見ているという話を聞く中で、なぜこの結果が出てきたのか疑問だったのですが、子どもたちに何か働きかけがあったのか、何かきっかけがあったのでしょうか。</p>
黒川教育長 水口教育支援課長	<p>水口教育支援課長お願いします。</p> <p>6ページの1(1)④についてのお話だと思いますが、令和4年度の56.1%から、令和6年度は53.4%に減っております。明確にはこれと言った理由は定かではありません</p>

黒川教育長	<p>せんが、令和4年度の時には、令和3年頃の状況について答えているものと考えておりました。この時にはまだ、コロナウイルス感染症の影響も多少残っていて、外出自粛などで自宅の中で、ゲームやスマートフォンの使用時間が自ずと長くなってしまったということが1つの要因かと考えております。以上です。</p> <p>その他質問はございませんか。 (質疑終了)</p> <p>それでは、本報告について終了してよろしいですか。 (一同了承)</p> <p>次に、報告事項(3)令和6年度小中学生国内交流研修事業についての報告を求めます。星野青少年担当主幹をお願いします。</p>
星野青少年担当主幹	<p>報告事項(3)「令和6年度小中学生国内交流研修事業について」ご報告いたします。資料1ページをご覧ください。</p> <p>今年度の事業につきましては、10月22日から25日まで、3泊4日で土佐市への訪問を予定しております。</p> <p>今回の参加者につきましては、記載のとおりでありまして、小学5年生が9名、中学2年生が3名、男女各6名の合計12名です。</p> <p>引率者は、訪問団長に、大麻東中学校の岡山校長、児童生徒指導として江陽中学校の中村主幹教諭、いずみ野小学校の太田教諭をお願いしております。また、担当の生涯学習課からは、私、星野が同行いたします。</p> <p>主な事業内容につきましては、コロナ禍の影響で実施していなかったホームステイを5年ぶりに実施し、ホームステイ先の児童生徒と一緒に登校して体験入学を行います。また、異なる文化や風土を体験するための施設見学や体験学習を行う予定です。</p> <p>詳細の日程は、現時点の予定として、2ページに記載のとおりです。</p> <p>2日目は、今回の受入校であります、小学校2校と中学校3校で交流学习を中心とした学校生活の体験を行います。</p> <p>3日目は、釣り体験やかつお節工場見学、和紙づくりなど、体験活動を中心としたプログラムとなっております。</p> <p>現在、10月の訪問に向けて、事前研修会を開催しており、8月29日に1回目の事前研修会を行い、自己紹介の中でそれぞれ研修事業にのぞむ思いや意欲を発表し合ったのち、訪問計画の確認、歓迎交流会での発表内容の話し合いをしました。</p> <p>訪問にあたり、5回の事前研修を重ね、北海道や土佐市に関する勉強のほか、発表の練習を行い、今後は10月17日の市長表敬訪問を経て、交流研修事業本番を迎えることとなっております。以上です。</p>
黒川教育長	<p>ただいま報告のありました、令和6年度小中学生国内交流研修事業について、質問等がございましたらお受けします。 (質疑なし)</p> <p>それでは、本報告について終了してよろしいですか。 (一同了承)</p> <p>続いて、2のその他に入ります。</p> <p>次回教育委員会予定案件及び日程について、説明を求めます。 山崎総務課長をお願いします。</p>
山崎総務課長	<p>次回の教育委員会の案件でございますが、報告事項として、「令和7年度予算編成方針について」、審議事項として、「江別市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について」などを予定しております。</p> <p>また、次回の定例教育委員会の日程でございますが、10月28日月曜日午後2時からと考えておりますが、各委員のご都合等はいかがでしょうか。</p>
黒川教育長	<p>ただ今ありましたように、次回の定例教育委員会は、10月28日月曜日午後2時からということで、皆様よろしいですか。 (一同了承)</p> <p>以上をもちまして、第9回定例教育委員会を終了いたします。 (閉会)</p>

終了 午後3時06分

署名人（教育長） 黒川 淳司

署 名 人 須田 壽美江